

## 第2章 障害者をめぐる現況

### 1. 身体障害者の状況

#### (1) 身体障害者手帳交付者数の推移 (障害種類別)

○平成12年の身体障害者手帳交付者数は3,274人、平成17年の身体障害者手帳交付者数は3,574人である。

平成12年と平成17年の手帳交付者数を比較すると300人の増加で、5年間に於いて9.2%の増となる。

○平成17年における身体障害者手帳の所持者は3,574人、平成17年総人口が115,479人なので、手帳所持者は総人口の3%を占めている。

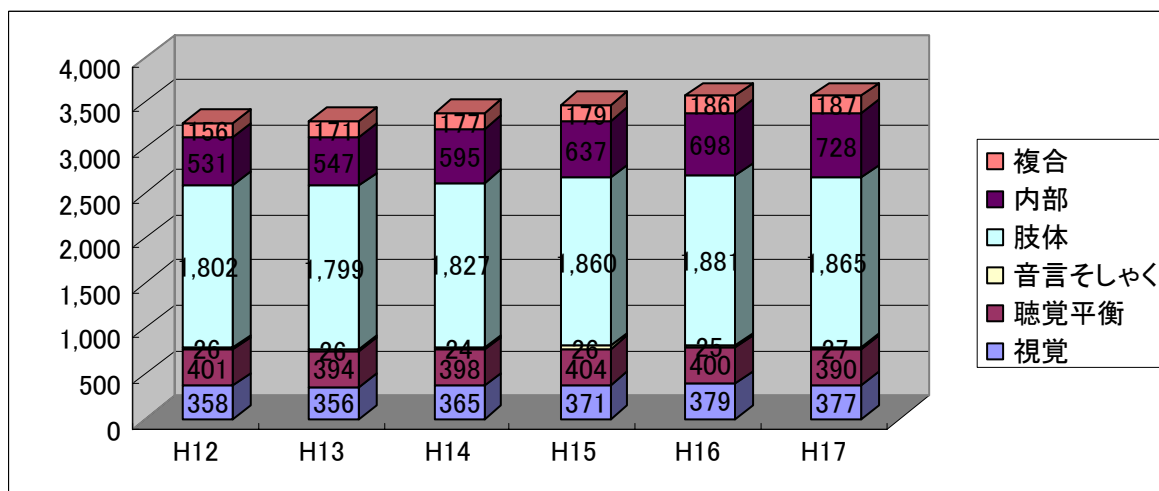
○平成17年における障害の種類別では、肢体不自由が1,865人で最も多く、手帳所持者全体の52.2%を占めている。平成12年と平成17年の伸び率では内部障害が最も大きく、5年間で197人の増となっている。

身体障害者手帳交付者数の推移 (障害種類別)

単位：人

	障害別	H12	H13	H14	H15	H16	H17
那須塩原市	視覚	358	356	365	371	379	377
	聴覚平衡	401	394	398	404	400	390
	音言そしゃく	26	26	24	26	25	27
	肢体	1,802	1,799	1,827	1,860	1,881	1,865
	内部	531	547	595	637	698	728
	複合	156	171	177	179	186	187
	計	3,274	3,293	3,386	3,477	3,569	3,574

(資料：那須塩原市の社会福祉)



(2) 身体障害者手帳交付者数の推移（等級別）

○平成17年における障害の等級別では、1級が1,073人で最も多く、手帳所持者全体の30%を占めている。

次いで、2級が750人で手帳所持者全体の21%を占める。1級と2級を併せると1,823人となり、手帳所持者全体の51%となる。

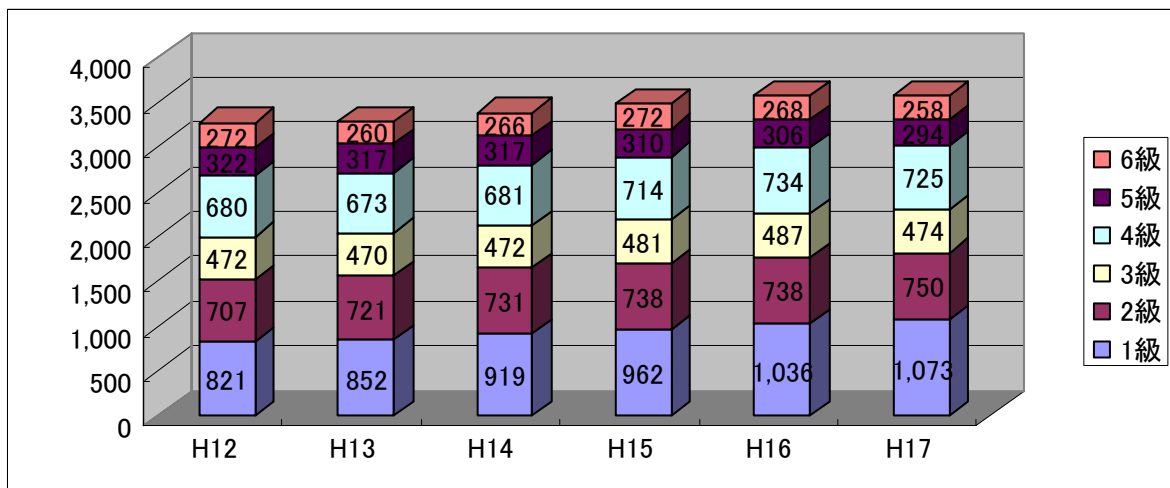
つまり、手帳所持者のおよそ半数は1級又は2級の重度障害者であるといえる。

○平成12年と平成17年の伸び率でも1級が最も大きく、5年間で252人の増となっている。

表4 身体障害者手帳交付者数の推移（等級別） 単位：人

	等級別	H12	H13	H14	H15	H16	H17
那須塩原市	1級	821	852	919	962	1,036	1,073
	2級	707	721	731	738	738	750
	3級	472	470	472	481	487	474
	4級	680	673	681	714	734	725
	5級	322	317	317	310	306	294
	6級	272	260	266	272	268	258
	計		3,274	3,293	3,386	3,477	3,569

(資料：那須塩原市の社会福祉)



## 2. 知的障害者の状況

### (1) 療育手帳交付数の推移 障害程度別

○平成12年の療育手帳交付者数は402人、平成17年の療育手帳交付数は522人である。

平成12年と平成17年の手帳交付者数を比較すると120人の増加で、5年間に於いて29.9%の増となる。

○平成17年における療育手帳の所持者は522人、平成17年総人口が115,479人なので、手帳所持者は総人口の0.4%を占めている。

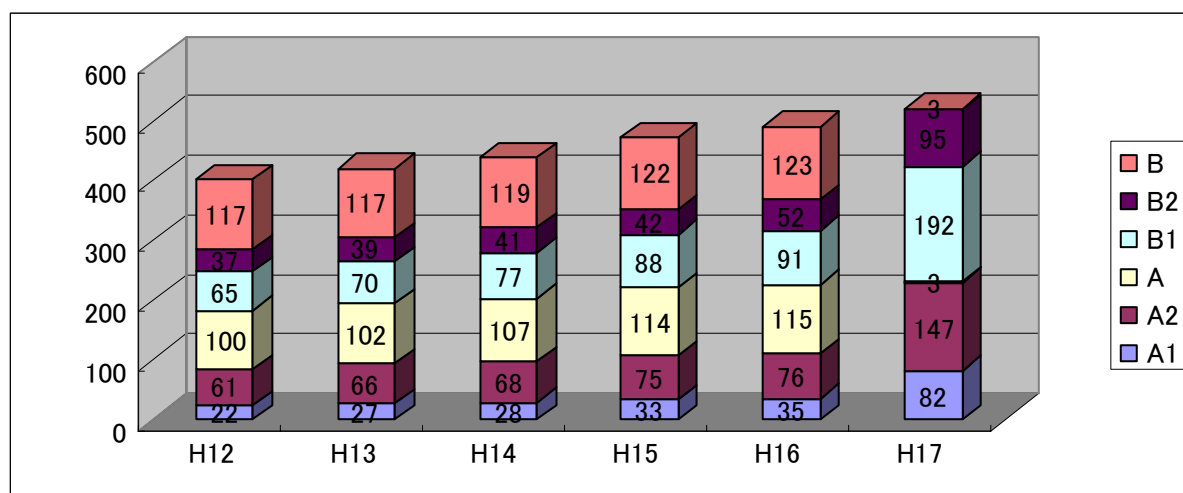
○平成17年における等級別では、A1（最重度）、A2（重度）、A（最重度及び重度）が232人、B1（中度）、B2（軽度）、B（中度、軽度）が290人であり、軽度が手帳所持者全体の55.6%を占める。

表5 療育手帳交付数の推移 障害程度別

単位：人

療育手帳交付状況		H12	H13	H14	H15	H16	H17
那須塩原市	A1	22	27	28	33	35	82
	A2	61	66	68	75	76	147
	A	100	102	107	114	115	3
	B1	65	70	77	88	91	192
	B2	37	39	41	42	52	95
	B	117	117	119	122	123	3
	計	402	421	440	474	492	522

(資料：那須塩原市の社会福祉)



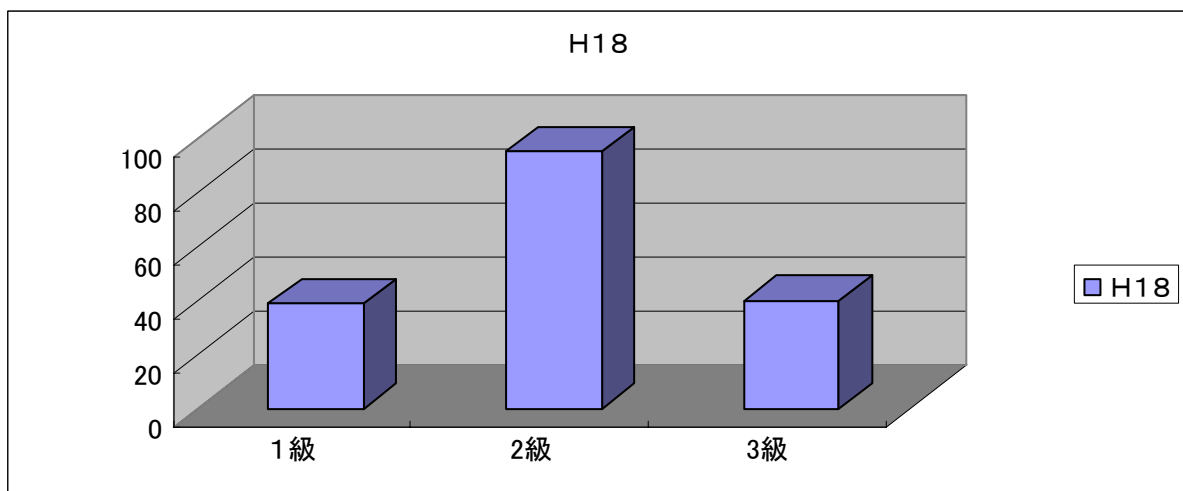
### 3. 精神障害者の状況

#### (1) 精神障害者保健福祉手帳交付数

- 平成18年11月現在の精神障害者保健福祉手帳所持者は174人である。  
平成17年度における精神通院医療費公費負担制度利用者は722人であることから精神障害者保健福祉手帳所持者の割合は極めて低くなっている。
- 等級別では、2級が95人で最も多く、手帳所持者全体の54.5%を占める。

表6 精神障害者保健福祉手帳交付数 障害程度別 (H18.11.1現在)

	精神障害者保健 福祉手帳交付状況	H18 単位:人
	那須塩原市	1級
	2級	95
	3級	40
	計	174



#### 4. 地域福祉に関する市民意識調査及び障害者福祉に関するニーズ調査結果

～障害福祉サービス等の利用に絞って～

##### (1) 地域福祉に関する市民意識調査

###### ○調査目的

那須塩原市地域福祉計画、那須塩原市障害者計画及び障害福祉計画の基礎資料として、市民の地域活動への参加状況や実態把握を目的として実施しました。

###### ○調査対象

那須塩原市在住の満18歳以上の男女から無作為抽出で2,000名を対象としました。

###### ○調査期間

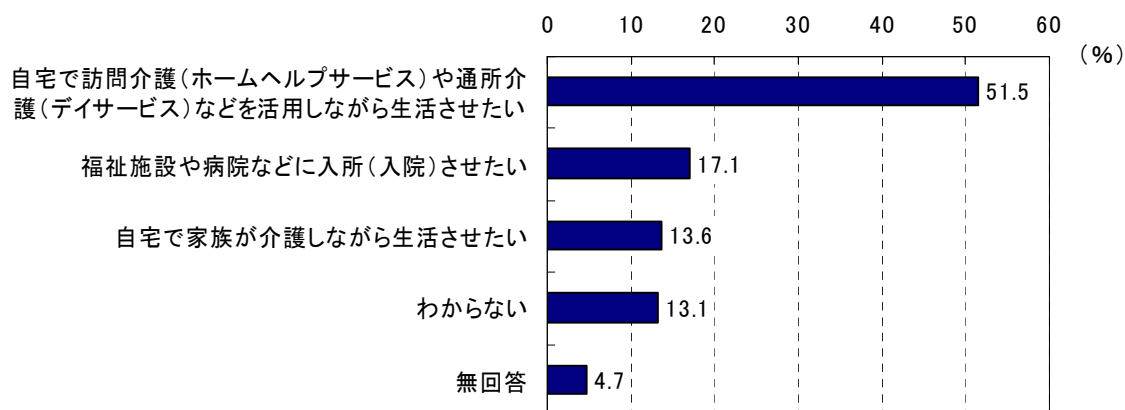
平成18年10月13日から平成18年10月24日

###### ○回収結果

788件（回収率39.4%）

① あなたは仮にあなたの家族が介護が必要になったとき、どのように過ごさせたいと思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問22 家族に介護が必要になったとき（単数回答） n=788

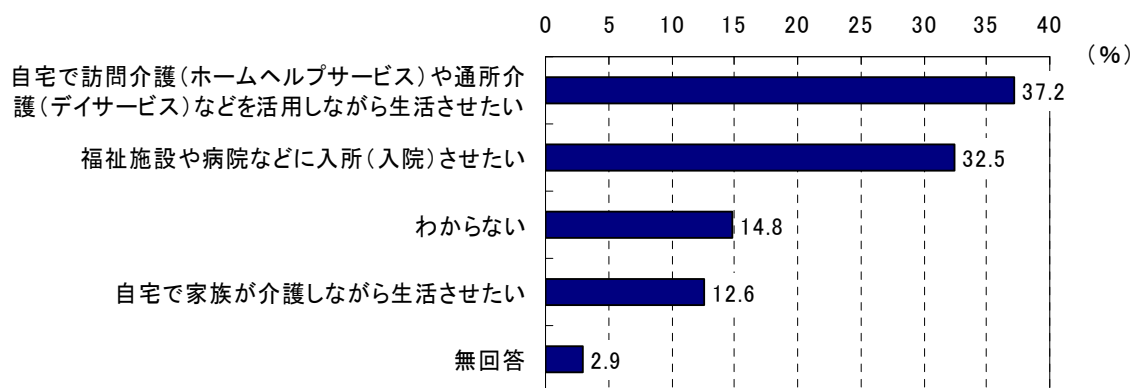


訪問介護や通所介護も含め、「自宅」で主に過ごさせたいと考えている方は、全体の約65%でした。一方、福祉施設や病院で過ごさせたい方は全体の17%であり、自宅と施設・病院との差の開きが大きいことが分かります。

そのなかで、訪問介護や通所介護を活用した自宅での生活を希望する方は全体の過半数であり、介護制度をうまく活用しながら、自宅で生活をさせたいと考えている方が多数であることが判明しました。

② あなたは仮にあなたが介護が必要な状態になったとき、どのように過ごしたいと思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問23 自分に介護が必要になったとき（単数回答） n=788

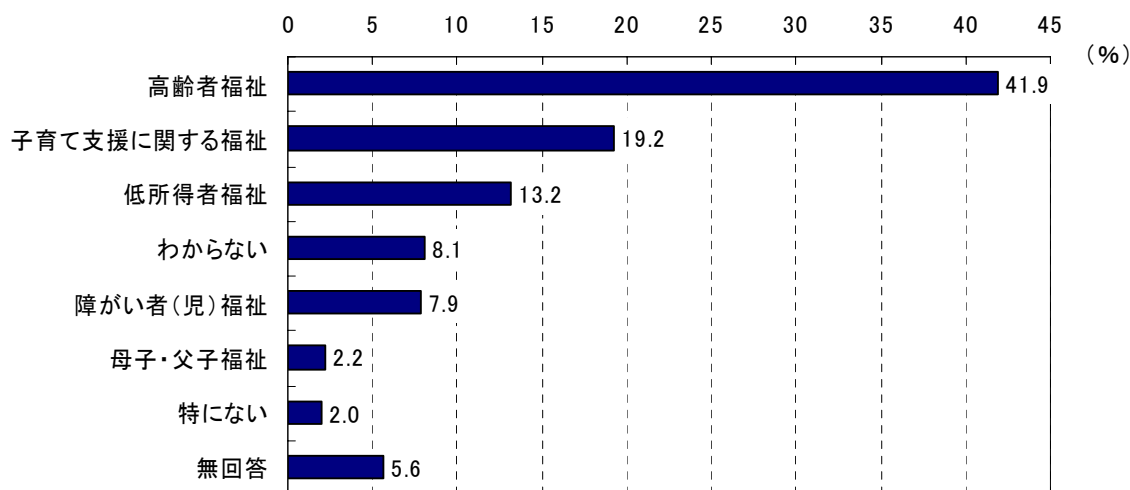


ここでは、自分が要介護になった際に、どのように過ごしたいか希望をお聞きしました。前問と同様に、訪問介護や通所介護を活用した自宅での生活を希望している方が多数を占めたものの、割合は37.2%と、家族が要介護になった場合と比べて低い割合となりました。その理由が、「福祉施設・病院に入院したい」という回答がほぼ同数になったところにあります。

前問との設問で比べると、家族は「自宅」で過ごさせたいが、「自分」は「自宅」か「病院」か迷っている、といった姿が予想されます。本アンケートでは、30～69歳の層が多く回答を寄せている点から考えると、「自分の親は自宅で」、「自分は病院・福祉施設に入所もあり得る」と考えていると考えられます。

③ あなたは限られた財源を有効に活用するため、今後、特に重視していくことが望ましい福祉施策は次のどれだと思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問26 財源を有効に活用するために、今後特に重視すること（単数回答） n=788



この設問では、限られた財源の中で、どの福祉施策を重視するかについてお聞きしました。「高齢者福祉」が41.9%と最も多くの回答を占め、次いで子育て支援、低所得者福祉と続いています。一方、障害福祉に関しては低調でした。

## (2) 障害者福祉に関するニーズ調査の実施概要

### ○調査目的

那須塩原市地域福祉計画那須塩原市障害者計画及び障害福祉計画の基礎資料として、障害者の実態把握を目的として実施しました。

### ○調査対象

本市における障害者（児）のうち、平成18年12月現在で、障害福祉サービス及び地域生活支援事業利用者、補装具給付者、自立支援医療受給者、那須養護学校児童生徒のうち500名を対象としました。

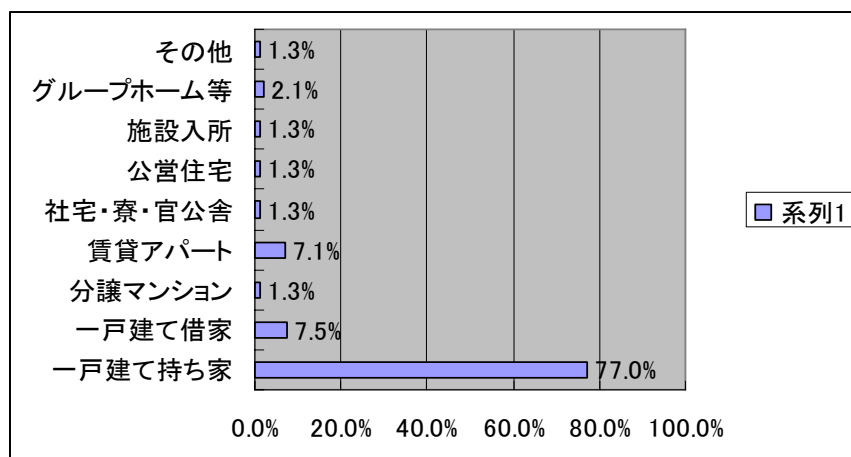
### ○調査期間

平成18年12月から平成19年1月

### ○回収結果

235件（回収率47%）

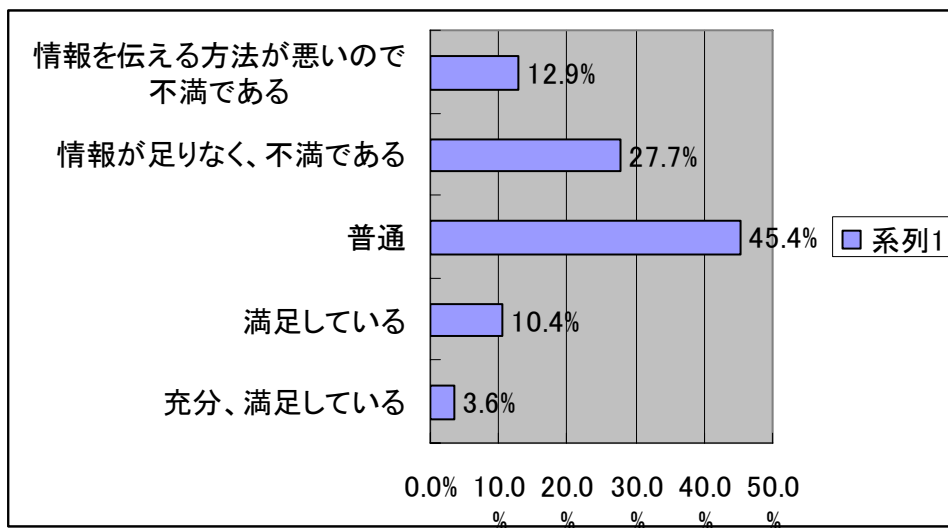
### ① あなたのお住まいは次のどれですか。



「一戸建て持ち家」が77%と高い割合を占めています。障害者福祉施設やグループホームに入所・入居している方は一部のみとなっております。

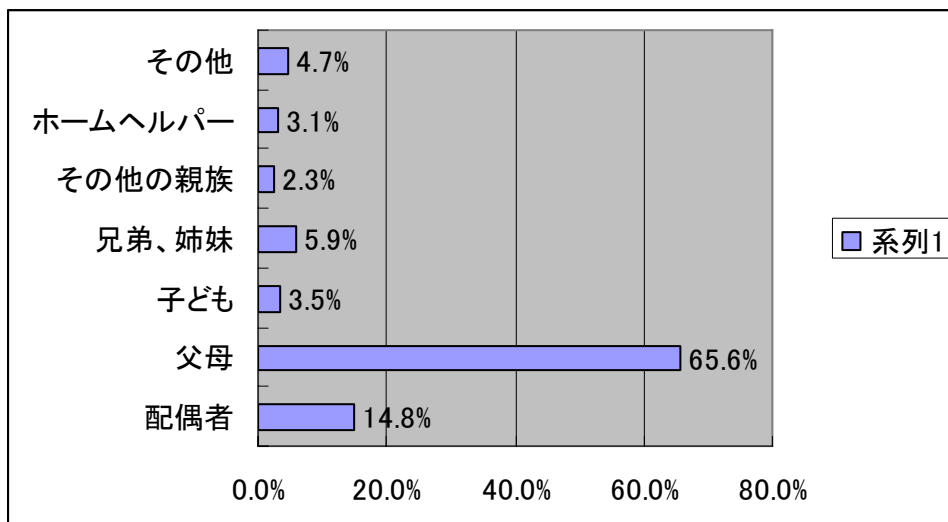


② あなたが現在得ている障害者（児）に対する福祉サービスの情報の満足度は  
どうですか。



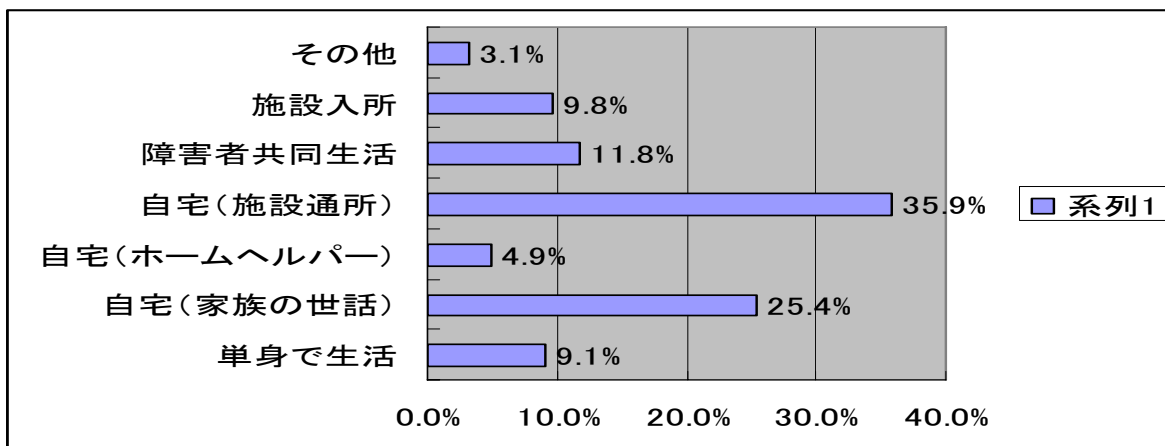
「普通」と回答したかたが約半数、「充分、満足している」が3.6%、「満足している」が10.4%で合わせて14%となります。また、「情報が足りなく不満である」が27.7%、「情報を伝える方法が悪いので不満である」が12.9%と満足度が低いと感じているかたが40.6%を占めています。

③ あなたの主な介助者は誰ですか。



「父母」が65.6%と高い割合を占めております。「配偶者」と「子ども」「兄弟、姉妹」を合わせると89.8%と約9割となり、身近な家族が介助者となっていることが分かります。

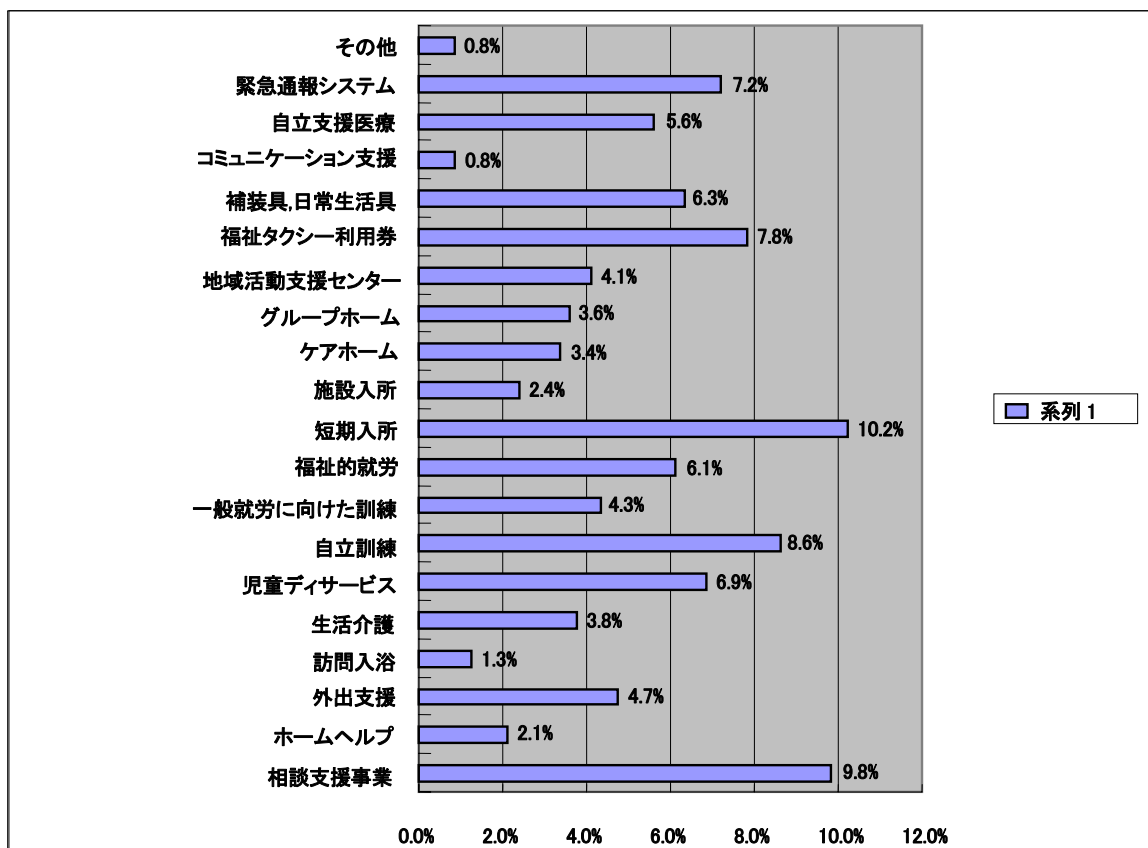
④ あなたは、今後どこでどのように生活したいですか。



「自宅で施設通所しながら生活」が35.9%、次いで「自宅で家族の世話を受けて生活」が25.4%となっており、これに「単身で生活」9.1%、「自宅でホームヘルパー等を活用して生活」4.9%を合わせると、将来自宅で生活したいと考えている方は75.3%とかなり高い割合を占めています。

また、「自宅で家族の世話を受けて生活」が25.4%であり、「自宅でホームヘルパー等を活用して生活」4.9%と「自宅で施設通所しながら生活」35.9%及び「単身で生活」9.1%の合計49.9%と比較すると、将来的には、家族の世話以外の手法を考えている方が多いと考えられます。

⑤ あなたが今後利用したいと思うサービスは何ですか。



「短期入所」が10.2%、「相談支援事業」が9.8%、「自立訓練」が8.6%と比較的高い割合を占めております。

また、サービスの性格で分類してみると、下記の4つが高い割合を占めています。

- ①「相談支援事業」10.2%
- ②在宅で訪問サービスの利用を希望する「ホームヘルプ」「外出時の移動支援」「訪問入浴」8.1%
- ③在宅の障害者(児)の介護者が病気等の場合の障害者(児)緊急入所「短期入所」10.2%
- ④社会的に自立するための様々な訓練、福祉的就労 「自立訓練」「一般就労訓練」「福祉的就労」19%

社会的に自立するための訓練、就労の場の確保、障害者(児)が在宅で生活するためのサービス、障害者が生活していくうえでの各種相談が今後望まれているサービスであると考えられます。

## 5. まとめ

本市における身体障害者手帳保持者数、療育手帳保持者数は年々増加傾向にあり精神障害者保健福祉手帳所持者数も今後増加していくと考えられます。

また、本市の障害者（児）は自宅で家族と暮らすケースが多く、介助者も家族が中心となっています。

しかし、今後は介護家族の高齢化やアンケート調査結果でうかがえるように、自宅で家族が介護をするという体制から将来的には介護者を家族以外に期待する傾向があります。

障害福祉サービスの利用は、「短期入所」が10.2%、「相談支援事業」が9.8%、「自立訓練」が8.6%と比較的高い割合を占めていますが、突出しているということではなく、利用ニーズは今後さらに多様化していくことが予想されます。

また、福祉サービス情報の満足度は約4割の方が不満を感じており、制度の周知や相談対応の充実等が必要であるといえます。